

# なきご之

1985

4

開園70周年記念号

大阪市  
天王寺動物園協会

開園70年を迎えて



天王寺動物園は、大正4年1月1日に現在の場所に開園して以来、今年でちょうど70年目を迎えました。

開園当初は、面積26,025㎡、収容動物181点という小さな動物園でありましたが、時代の変遷とともに幾多の施設改善や園域の拡張などを重ね、今日では面積105,258㎡、動物は340種、1200点を収容する日本でも、有数の動物園に発展してまいりました。

戦前、リタ嬢に代表されるチンパンジーの名演技は、全国を風びしたものであり、オールドファンには、今もってなつかしい思い出になっていることと思います。また、戦争中の猛獣処分は、非常に悲しい出来事でありましたが、昭和25年には、いち早く、ゾウの春子、ユリ子が入園し、その後、ライオンやトラ、ホッキョクグマ、チンパンジーなど多くの動物たちも続々と入園、加えて昭和36年から無柵放養式展示をとり入れた動物舎の改造が始まり、花と緑がいっぱいの近代的な動物園をめざし、整備されてまいりました。

昭和45年、大阪で開催されました万国博覧会は、動物園にとりましても、世界を駆ける機会に恵まれ、このときを契機といたしまして、世界各地の動物園と多くの動物交流を行ない、動物を通じて国際親善や技術の交流にも、大きく寄与いたしました。大正14年、全国で初めてダチョウの人工孵化に成功、近年ではタンチョウ、ベニジュケイ、モウコガゼル、クロサイなど多数の国際保護動物や希少動物などの繁殖を重ね、さらに42年間の長期飼育記録を樹立したエミュウや昭和26年に入園して、今なお元気なチンパンジーのシュジーなど数々の長命動物を育て、市民の皆様方のオアシスとして、親しく愛さ

4月号なきごえもくじ

Table with 2 columns: Title and Page Number. Includes items like '土井園長あいさつ', '動物と私', '動物園長回顧録', etc.

れてまいりました。このことは、ひとえに動物園に愛着をもってくださる市民の皆様方の暖かいご支援と、関係のかたがた、並びに諸先輩のご尽力とご指導の賜ものと心から感謝を申しあげる次第であります。

ところで、近年、動物にまつわる情報が随分と豊富になってまいりました。最新の技術を駆使したすばらしい動物の映像や詳細な動物の観察記録は、私たち動物園関係者にとりましても、興味深いものがありますが、動物の情報がこのようにほとんど毎日、私たちの茶の間に流れるのは、私たちの生活から自然が失われ、自然とのふれあいを求めている端的な現象として、受けとめることができると思います。

動物園は自然を知るうえで、数少ない大へん重要な施設であり、その社会的使命にむけて、レクリエーションに、教育に、研究に、自然保護に、鋭意充実に努めているところでありますが、自然と私たちの橋渡しの場として、今後ますます重要になってくると思います。幸い、関係のかたがたの格別のご理解とご努力によりまして、昭和58年度には新しいキジ舎の改築を行ない、昭和59年には待望の夜行性動物舎とレクチャールームが完成し、本年1月15日からオープンいたしました。また本年度にはサル舎の改築を予定するなど、施設の刷新と近代化にむけて、なお一層の努力をいたしております。しかしながら、素晴らしい歴史と伝統を誇る当動物園が、より市民の要望に答え、21世紀にむけて歩むにあたり、多くの大きな課題をかかえていることも事実であります。特に天王寺公園再整備のなかで、現在検討されております動植物園構想や老朽化している施設の改善、コアラ誘致など当面する諸問題があり、よりよい方策を求めて最善の努力を行なわなければなりません。70周年を迎えるにあたり、市民の皆様方の日頃のご愛顧に心から感謝を申し上げますとともに、いつまでも皆様に愛され親しまれる動物園でありますよう全力を傾注する所存でございますので、今後ともより一層のご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

天王寺動物園長 土井良彦

表紙の写真説明

高度約200mから見た天王寺動物園の全景です。動物園も大正4年の開園以来70年を経て、広さも開園当初の26,025㎡から105,260㎡と約4倍に拡がりました。

(昭和60年3月28日撮影：大阪市消防局 航空隊)

古賀忠道

天王寺動物園の創立70周年、誠にお目出度く、心よりお祝い申し上げます。

私は昭和3年春、大学を卒業するとすぐに、上野動物園に就職いたしました。上野動物園は、帝室博物館の所管であったのですが、大正13年、皇太子殿下(今の陛下)のご成婚記念として東京市にご下賜になったもので、当時の園長は黒川義太郎氏でした。黒川園長はその頃すでに60歳を越しておられ、しかも病身で、私の就職後間もなく引退されました。

昭和4年、大阪で開かれていた博覧会に出品されていたオットセイが、上野動物園に寄贈されることとなり、私はそれを受け取るために大阪に行き、この時初めて天王寺動物園長林佐市氏にお目にかかりました。林園長はその頃、黒川

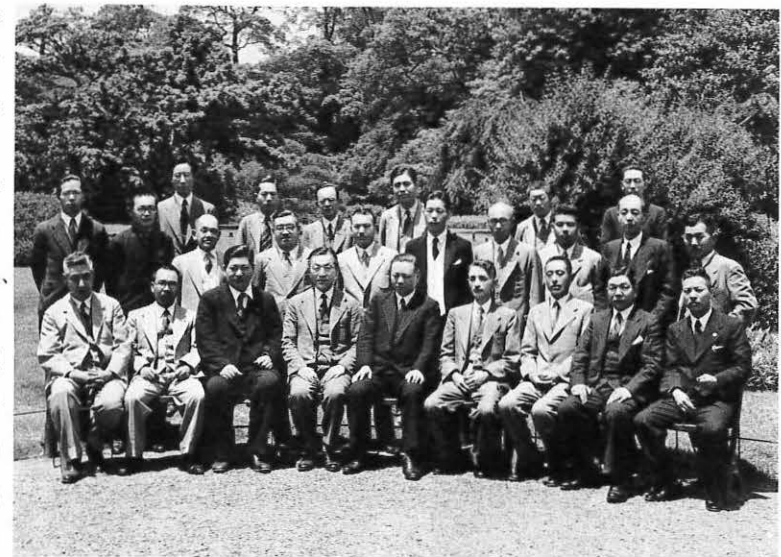
園長につぐ動物園の最長老として有名だったと思います。そんなことで私は、その後も林園長にはいろいろお世話になり、大阪に出張した際は、時々お宅に泊めて頂いたりしておりました。

その頃天王寺動物園には有名な、チンパンジーがいて、リタ嬢と言ったと思いますが毎日園内で自転車を乗りまわしては入園者を喜ばせていたものでした。

上野動物園は、当時一万坪と称され、現在の不忍の池の部分を含まない、上野公園の高い部分だけだったので、私は何とかもう少し広げてもらいたいと東京市に望んだのですが、なかなかそれは許されず、

その頃、天王寺動物園では、天王寺駅の方に拡張されるなどあって、私は大変うらやましく思った記憶があります。

昭和12年頃より、戦争も激しくなり、動物園でも餌の入手、動物の補充、空襲時の対策など多くの問題が生じ、動物園間の連絡の必要が痛感され、昭和14年、日本動物園協会が発足しました。私は協会の世話は、動物園の長老の林園長にお願いしたいと申し出ましたが、協会の性質上、本部は東京におくべきだと言うので、私が代表格となりお世話をするこ



昭和15年6月15日。日本動物園水族館協会第1回総会 前列右から4人目が林大阪動物園長、3列目右から3人目が古賀上野動物園長

水族館協会となる)昭和14年11月、全国の動物園、水族館関係者が、東京の後楽園に集まり開催された日のことを、私は思い出します。

このような経緯により、現在も、日本動物園水族館協会は、上野動物園園長が会長となり、運

営されていることは皆様のご承知のとおりです。

天王寺動物園は、最近夜行性動物舎の完成など新しい施設を拡充され、益々発展されていることをお喜び申し上げますとともに、一時クローズアップされた校内暴力などを思い起こす時、青少年の生命尊重の精神の向上は生命ある動物を通じて以外には不可能とさえ信じますので、動物園関係の皆様がたの、一層のご活動のほどをお願いいたします次第です。

(元上野動物園長) (東京動物園協会理事長)

## 動物園長回顧録

戦後、天王寺動物園長を歴任された3名の方々に昔をふりかえって数々の思い出を語ってもらいました。

### 和田辰己氏

(昭和10年3月動物園に就職、昭和37年2月より昭和47年6月まで園長)

私は今からちょうど50年前の昭和10年3月に動物園に19歳で就職をしました。昭和10年というと開園20周年にあたる年でした。この記念として昭和8、9年頃から中園（いまの中央門からカモ池周辺）と南園の拡張があり北極グマ舎、アシカ池、サル島などが完成したのです。地下道もそのときに造られ、ここに淡水魚の水族館が設けられました。またゾウ舎も完成するなど竣工式や記念式典がはなばなしく行なわれました。当時としては、北極グマ舎は非常にぜいたくな獣舎であると一般に思われていました。実際、当時日本の動物園では先進的な発想で設計された大規模な獣舎でありました。寝室も地下にあり見事な凝岩の仕上げといい誇れるものでありました。現在もおこの時代の動物舎は南園に原型をとどめており誠に感慨が深いものです。

当時は、台湾、朝鮮半島が日本の統治下にあり、それぞれ台北動物園、京城動物園を含めて日本には13の動物園しかなかったのです。そのとき、大阪市の事業収入のトップは動物園か市電かといわれるくらいで、その収入は多かったと記憶しています。たしか、入園料は小人が5銭、大人が15銭であったと思います。

社会情勢としては、昭和7、8、9年が戦前の日本では隆盛期でありましたが13年には満州事変などが起こり次第に太平洋戦争への道のりをたどることになっていった



チンパンジーのリタ

のです。これは動物たちにとっても大変厳しい時代を迎えることになるのです。

この時代で忘れることができないことの一つにチンパンジーのリタ嬢のことがあります。私が動物園に就職する3年前の昭和7年にアフリカからチンパ

ンジーのめすが入園しました。当時市民から愛称を募集した結果、アフリカのリカをとって「リカ」と名付けられましたが、いつのまにかリタと呼ばれるようになりました。頭が大変良く色々な芸から次へと覚えていきました。器用にフォークとナイフを持って食事をするようになり、タバコもきせるでうまそうにスパスパとふかせました。竹馬、自転車のりから電気自動車まで運転をしたものです。リタ嬢の人気はいやが上にも上昇して全国から一目見ようと入園者が集まりましたし、外国の映画会社からも撮影に来たこともありました。昭和13年に顔に黒い斑点のあったおすのチンパンジー（愛称ソバカス）が入園し、これとリタ嬢を同居させたところ、まことに相性がよく日本の動物園では初めてチンパンジーの妊娠、出産ということになりました。昭和15年7月のことでありました。しかし、出産後の経過は悪く翌日死んでしまいました。在園8年の間は、その名演技によって全国の動物園のなかでも最大のスターぶりを発揮し、入園者も年間250万人以上を数えたのです。これは、当時の大阪市の人口を上まわるものでした。リタ嬢は今も南園の1偶にコンクリートの石像となって入園者を見守っています。

開園30周年がちょうど終戦の年でしたからもちろん混乱期でありましたし、40周年もまだまだ復興の緒についたときで記念行事などは行なわれませんでした。

私が応召したのは昭和17年で中国大陸の広東において復員したのが昭和21年5月でしたから動物たちを葉殺したりした最悪の時代にはいなかったのです。

帰って来ていまでも一番印象に残っているのは麦畑とイモ畑になってしまった動物園でした。軍需物資にするための鉄材の回収で人止柵や獣舎の一部も取り払われており、まことに無残なものでした。焼夷弾もあちこちに落ちたり、園のすぐ横にあった武徳殿（剣道場）も焼失していました。

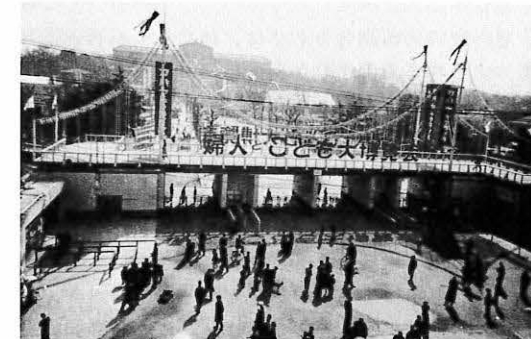
ライオン舎などにはブタやニワトリが飼われていたのです。それからは、麦を作ったりイモ畑をたがやしたりという日が続いたのです。当時、動物園でなしに「静物園」というようないまわしい呼ばれかたをしたものです。

水禽舎は天井が破れていたもので、アヒル、ガチョウなど飛べない鳥しか飼われていませんでした。春の産卵期になっても卵があがって来ない、飼育者がひそかに食べてしまっているんじゃないかという疑いをまわりでしていたところ、何とカラスが天井の網の破れから入って失敬していたという笑えない話もあり、食糧難の時代と獣舎の荒廃を象徴するエピソードでありました。

昭和27年に、サンケイ新聞主催の「婦人と子供博」が天王寺公園一帯で催されることになったのです。

これは、講和条約の締結記念ということであって、ようやく平和が訪れたという実感がしたものです。平和なしには動物園も何もありません。この博覧会をきっかけに獣舎の新設はなかったものの、戦前のような園の様子を取りもどしていったのです。

そして、この2年前にゾウの入園もあり、動物園らしくなっていたのです。



昭和36年からの改造計画が実施され、5年計画が9年かかりましたがこれには4億5000万円の工費がつき込まれ放飼式の獣舎がつつぎつつぎに生まれてきました。

開園50周年の記念事業として天王寺公園のグラウンド（野球場）が園域に取り入れられたのです。ここにスペインのパロセロナ動物園を参考にした大きなカモシカの放飼場が造られました。オープンセレモニーには当時の中馬市長もおいでになり賑やかに行なわれました。



昭和45年には万国博があり、このとき7カ国から8種26点の動物たちが寄贈され、国際交流がはなやかな時でもありました。オーストラリアのホリオーク首相や有名な人々の来園も相つぎました。ニュージーランドから贈られたキーウィを天皇陛下にご覧いただいたのも光栄でした。

万国博が終わってからその跡地に動物園の移設という話も市関係以外からありましたが改造計画が終わっており都心にあることが入園者の便に良いことなどで立消えになりました。また、その前には長居の競

馬場の跡地や鶴見緑地への移転話、あるいは分園の話も浮かんで消えていきました。

その他、にがい思い出としては、チンパンジーの脱出事件があり、射殺の決断を迫られたことがありました。しかし、ライフルの発射寸前になって、チンパンジー自ら自分の獣舎の濠に飛び込んで幕となったことがありました。また、戦前はチンパンジーのソバカスに右腕を咬まれ2ヵ月の入院生活を送ったこともありました。

私が園長として在職した間には次のようなことを行なったことが特に印象に残っています。

1. 全園の改造計画を推進させ完成させたこと。
2. 47年4月から中学生以下の無料開放を行なったこと。
3. 開園50周年の記念事業を行なったこと。
4. 昭和42年5月社団法人天王寺動物園協会を発足させたこと。
5. 万国博のとき多くの親善動物を受け入れたこと。

今後は、さらに入園者を増すための動物園の運営をどうもっていくかに一段の努力をしていただきたいと希望しております。

### 中川道朗氏

(昭和20年12月動物園に就職、47年6月から54年6月まで園長)

私が就職した昭和20年は日本が戦争に敗れた年で、町は焼野原で食べ物のない苦しい時でした。当時動物園に残っていたのは、ラクダ1頭とエミュー、ペンギン2羽、ウマ、ウシ、ウサギそれにクジャク、ガチョウ、アヒル、ツルくらいのものでした。

仕事といえば、動物の餌の確保と獣舎の補修に終日追われていたものです。園内にはイモ畑と麦畑をつくって自前の食糧の増産に汗を流しましたし、馬力を引いて中央市場まで餌をもらいに行く毎日でした。

人間の食べものさえ不足し、すべて配給制であった時代ですから動物に回ってくるはずありません。一部の動物たちは進駐軍の残飯で生きながらえていくというようなみじめなものでした。とくに穀類がなくて、生き残ったツルも毎日のように死んでいったのは非常に残念なことでした。

その後数年はまだずっと同じような状態が続いておりましたが、動物を取り戻そうという意欲もぼつぼつ出はじめてきました。近郊の農家にウサギの珍しい品種があると聞いて買いに行ったり、丹波の山奥までイノシシを引き取りに行ったこともありました。昭和24年2月頃、アザラシの子が迷い込んだ

という情報で、島根県の海岸まで引き取りに行ったことを覚えています。貨車に乗せて帰る途中はトンネルの多い山陰線のことですから、動物といっしょに煙にむせんだものでした。駅に着くたびにアザラシの体を冷やす水を求めて線路を走ったのをはっきり覚えています。

昭和25年頃だったと思いますが、京都府下の淀川でカワソウを発見したという情報で、捕獲に行きましたが、これはついに捕えられませんでした。キツネが守口市の学校の床下にいるということで捕えに行ったりもしました。また、仁徳陵ヘシラサギを捕獲に行き鳥舎をにぎわせたこともありましたが、メジロ、ヤマガラなどの野鳥も府下の野山で集めて餌付けし展示していききました。したがって25年までは外国産の動物を購入するようなことは全くなく自分たちで細々とした努力をしていたわけです。

昭和25年になるといよいよゾウなどの外国産の動物たちがお目見えしました。空屋であったゾウ舎にゾウが戻ってきましたし、ブタやヤギが入っていた猛獣舎にライオンやトラが戻ってきたのです。すさんでいた市民の心も次第に復興への意欲がわいてきたところで、何も娯楽のなかった市民にとって動物園はやはり心のなごむ場所として連日大賑わいでした。

しかし、施設そのものは戦前のままであったので、



昭和39年当時  
①カモシカ園、②ゴリラ舎、③類人舎

昭和35年に全国の改造計画をたて、ぼちぼち改造に着手したのです。35年より44年までに園内の80%くらいの施設をこれまでの檻式の獣舎から放し飼いの獣舎に変えていきました。当初5ヵ年計画でスタートしたのが4年延びて9ヵ年でほぼ完成しましたが、後半は、西側に高速道路の建設がからんだもので、園内の緑の大木が失われたことは景観的にかなりダメージがありました。35年にクマ舎の建設より手がけゴリラ舎に移りました。ゴリラ舎は、当時としては全国的にもめずらしい強化ガラスを採用したのですが、当時としてはあの大きさのものしか出来なかったのです。ゴリラが安眠できるようにと

ベッドを暖める工夫をしたり、脱出事故の対策として4重の扉を設けるなどに気を配りました。さらに運動場にはスベリ台や室内にロープをつるすなど遊具を設けるなどは全国の動物園でも初めての試みでした。

クマ舎は、以前は北園にあり檻式で、客の入止柵内への立入りなどで事故があったので濠をつくって広くて見やすく、安全な放飼場をつくるようにしました。

思い出のある獣舎としては、他にキリン舎があります。それまでのキリン舎は、運動場への扉は重いつり戸で毎日飼育係が苦労していたのを電動のシャッターにしたのです。これも日本で初めてのことでありました。また、従来過保護の傾向にあったキリンのために窓を大きくし、通風をよくするようにしてやったことが、その後のキリンの飼育にプラスになったと思っています。

昭和39年には猛獣の放飼場が作られましたが、新しくなった放飼場では、ライオンが足の裏についた土をはらいのけていたのをはっきり覚えています。

永年コンクリートの上で飼っていたので足のうらについた土が気になったのでしょう。また、どこか逃げてやろうという気があるのかさかんに空をあおいでいたことを覚えています。

これらの動物舎の新設については、外国の資料が当時とはぼしく、国内のこれといった動物園を見学したり、自分で考えたり苦心したことを覚えています。とにかく檻から放飼式にするためには安全度とか見やすさ、飼いやすさ、すみやすいものにするための工夫とそれらのバランスに苦労したものです。

現在の動物舎の1つ1つにそれなりに苦労をした思い出が残っています。

ちょうど私の園長時代に開園60周年を迎えました。そのときは園域の拡張はありませんでしたが、高速道路下の有効利用を計るため子供たちのための遊び場と入園者の休息場所の設置や、展示館と救護室の設置が行われました。

園長時代の思い出に残るできごととしては、昭和48年に世界の動物園長会議で来日された多くの著名な諸園長をお迎えしたことです。さらに、49年には、中国との国交が回復したことに伴って中国ブームが起こったのですが、いち早く上海、北京との動物の交流を実現したことです。残念ながらパンダは、日本の国民にということ、首都の動物園に収容展示されることになりました。その年の8月後半から10日間私は、上海、北京、広州の動物園を視察することができ大いに中国との友好のきずなを深めました。

つぎに、昭和50年には、欧米の動物園を視察したことです。アムステルダム、ロンドン、ペイントン、

ベルリン、フランクフルト、チューリッヒ、パーゼル、ワシントン、フィラデルフィア、ニューヨーク、ロスアンゼルス、サンディエゴなどの有名な動物園で大変勉強になりました。

ヨーロッパの動物園は、面積も10ヘクタールから30ヘクタールというものが多く、当園が10ヘクタールですから、面積的にはそう変わらないものでした。第2次大戦で相当な被害にあったにもかかわらず、みごとに復興をしていました。園内には樹木が多く、庭園の管理が行届いていたのと、園内の教育的な分野での充実ぶりが特に印象に残りました。また、それぞれの動物の繁殖のための施設的な配慮がよくなされていたことです。天王寺動物園は9ヵ年計画で型としてはととのったのですが、このときに失った緑を回復させることに全力をそそいでいたので、緑の多い動物園風景を見て我が意を得たりと感じたものでした。都市動物園として動物と植物の共存した美しい動物園にすることが、入園者に喜ばれるものであります。

入園者のマナーの良さにも驚かされましたが、園内に紙くずや食べかすを捨ててあるのを見たことがありませんでした。大いに見習わねばならないことです。

アメリカの動物園は広さはくらべものにならないほど大きいのですが、教育にも力を入れていたのが印象的でした。子供動物園では、必ずといっていいほどボランティアがいて直接動物の話をするとか、質問の受け答えをしていました。レクチャールーム、資料室の完備ができていたことなどです。日本の動物園は、まだまだ見るだけに終わっているように思いますし、もう少し一般市民と動物園とが親しくなって、動物に対する眼と自然に対する親しみを深めてもらうことが大切であろうかと思えます。

在職時代でうれしかったことは1つはヨーロッパコウノトリが日本で最初にふ化したことです。たった1番から今では相当な数がふ化育成し各地の動物園に引き取られましたし、現在も多くのヨーロッパコウノトリが入園者に親しまれており、今でも当園の自慢の鳥であ



ります。また1つは、タンチョウが増えたことです。戦争前は、18羽のタンチョウがいたのに前述したように23年頃までに栄養失調で全滅してしまいました。毎日ガリガリにやせて死んでいく貴重なツルに胸をしめつけられたものでした。きついつかこの日本の代表的な鳥を繁殖させてやろうと決意したものでした。その後昭和24年に某ガラスメーカーから1番のタンチョウが寄贈されたのですが、雌はほもなく死んでしまい、それっきり雄だけを飼育していました。しかし、49年に北京から雌を友好動物として受け入れ繁殖につながったのです。雌が来てから見違えるように羽根のつやが良くなった雄は2年後から毎年ひなをもうけて私の念願をかなえてくれました。そして世界でも有数のタンチョウの繁殖園となったのです。日米市長会議に出席した大島市長が、繁殖した2羽のタンチョウをサンディエゴ動物園へ寄贈し親善の役をはたされたのもうれしいことでした。



また、キジ類の人工授精を日本の動物園として最初に手がけたことも楽しい思い出であります。反対にいやな思い出としては、ヒョウの脱出事故であり、サル島

の集団脱走であり、カモシカ園への野犬の侵入でした。とにかく思いだすのもいやなことで、動物たちは、常に細心の注意を払って飼わなければならないことをその都度思いしらされたような次第です。

動物の治療などでは、旧のサイ舎で寝泊まりしながらサイの治療をしたことが思い出に残っています。結核にかかった雄サイに毎日ストマイの注射を続けたことです。当時、麻酔銃もなく直接前肢の皮ふのうすい部分に注射するのです。血痰が床のあちこちに落ちて弱っていくサイの姿はいまも忘れることができません。あるときニンニク末を多量に与えたら少し元気になり、小走りできるぐらいになりましたが、結局は死んでしまいました。

万国博のときには、多くの動物の入園がありました。また、会場での外国パビリオンにもいろいろな動物がやって来ていました。インド館にホワイトタイガーが来るというので、その施設面での指導にあたったことがありました。そして45年の3月13日、

氷雨の降る寒い日にホワイトタイガーを万博会場で受け入れたのです。その後もトラの健康管理のためや、いろいろのパビリオンに前後50回も足をはこんだものです。ホワイトタイガーをぜひとも大阪の市民のために残して欲しいとお願いしましたが、その時点で、全インドで23頭くらいしかいない珍獣で、インド政府の承諾が必要な貴重なもので、ついに願いはかなえられませんでした。しかし、これが縁でインドゾウのラニーひろ子の入園につながったのです。そして、また、世界の7ヵ国から8種26点の動物たちの入園となりました。



インドゾウの贈呈式

最後に、私は、次のことを今後の動物園に希望したいと思っています。これからは、もう少し面積を広げて、ゆとりのある動物園にしていくこと。さらに四季折々の花と緑をふやすこと。稀種の動物の繁殖をめざし、さらに世界の動物園との情報の交換をすること、欧米の動物園で見られたように、レクチュアルームを活用して市民との対話をすすめること。獣医技術をより研鑽をすることなどです。これからますます情報化社会となるわけですから、これに合ったように、とくに情報交換をして欲しいと願っています。

さらに、施設面での希望としては、花壇、便所、休憩所、レストラン、案内所、噴水、動物の彫刻、売店など入園者のための便益施設を充実したり、もっともっと美しいものにしていくようお願いしておきたいと思います。

#### 橋本一郎氏

(昭和49年5月より動物園へ着任、昭和54年6月から58年5月まで園長)

私が動物園の飼育課長として着任したときにまず直感的に思ったことは、動物園の管理エリアつまりうら方が未整備であるということでした。道路側から飼育資材の竹ざお(夏の日よけ用のもの)が丸見えになっており住民の苦情がありましたし、倉庫がな

く牧草やヘイキープが高速道路下に乱雑に置かれていました。動物の検疫場が未整備で、しかも動物病院や検査器具もまだまだ古くさいものでありました。当時、サルや赤痢がある動物園で集団発生して新聞を賑わしたので、子供たちの集まる動物園で起こらないようにする必要があったのです。

また、動物を冬の間一時的に収容したり、弱った動物を休養させるための施設が、プレハブで雨もりがはげしくいかにもみすぼらしいものでありました。

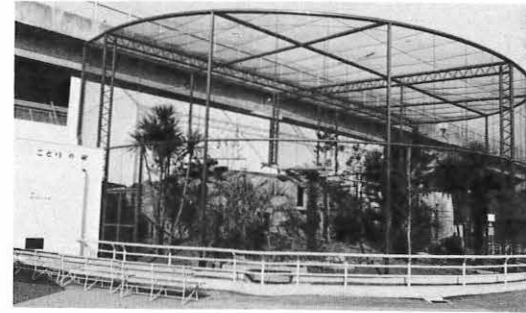
そこで、関係者の意見を聞きながらこれらの施設の整備にとりかかったのです。そして、新しい動物病院や検疫室、飼料倉庫と調理場、管理倉庫が順次新築されていきました。また、一時収容舎も改修されました。事故で死亡した大動物の死体や動物から排出される糞便や園内のゴミの処理も大きな問題であり、もう少し何とか処理方法の改善ができないか日夜頭から離れなかったものです。おかげで、これまで、園内2ヵ所の焼却炉で焼却していた園内のゴミは、すべて市の清掃工場に搬出することになりました。動物の糞便とか寝わらの処理は問題を残したままでしたが鶴見緑地の樹木の肥料に使用しました。

園内の電線が木にあたり、ぶらぶらして風が吹いたり、雨が降るとスパークするなど電気関係の整備も大きく遅れていました。このためよく、夏にはペンギン舎のクーラーが止まってしまったりして、夜中、宿直者が大量の氷の手配をしなければならないこともありました。このため電気設備の総点検や新しいキュービクル設置などが行なわれることとなりました。

排水関係の未整備も目につきました。逐次新しい獣舎への改善は行なわれていましたが、排水系統の抜本的な改修ができていなかったのです。たしかに地形的にフラットですから水勾配を十分とることがなかなか困難ですし、各所に濠式の獣舎がありますのでその濠の水はすべてポンプアップして流さねばなりません。こうした問題もぼちぼち改修されていきました。

地下道のスロープ化のことで、以前は北園と南園を結ぶ連絡通路は階段になっており、行楽シーズンの日曜祝日などは入園者で大変混雑し危険な状態でありました。警察からも指摘があったようなわけで何とかスロープ化にしていくことになったのです。この結果、入園者の流れはスムーズになり身障者の方にも喜ばれる結果を得ました。

60周年記念の事業としては高速道路下の整備が中心となりましたが、当時、宝くじ協会からの寄付の話もありましたので、熱帯鳥類舎や夜行性動物舎をこれから設けていくのが動物園には必要だと当時の中川園長とも相談しておりました。幸いにも翌年実現の運びになったのですが、熱帯鳥類舎を建設することになり、いろいろ検討されました。放養舎とペン



昭和53年完成のこりの家

ギン舎との間の植込みにネットをかけて鳥舎を造るとか、カモシカ園にネットをかぶせるとかの案も出ました。当時の小鳥舎は、走鳥舎のすぐ横にあり、木造で相当いたんでおりました。半分はケージになっており、観客通路をはさんでカゴ飼いのスペースになっていました。そこで、結局新しい熱帯鳥類舎はすぐ横の高速道路に背を向けた位置に建設されることになりました。

カゴ飼いをすべてやめて小鳥たちを自由に飛び回れるようにしたもので、寒がりやの小鳥には暖房設備もある立派なものになりました。

その後、コウノトリ舎が建設されたり、2回目の宝くじ協会の寄贈で猛禽舎も建設されました。

旧のペンギン冷房室は撤去されず放置されていたもので、ちょうど旧の猛禽舎にも接しておりいっしょに撤去して広い立派な猛禽舎となり、この辺りの整備が完了しました。

動物の思い出というサイの雄の導入に苦労したことでした。私が園に来たときは、雌親と子(雌)だけであり、雄の入園が望まれていました。雌親を出して子どもの雌とそれに見合うような雄をさがしていたところアメリカの動物園生まれの雄の子が入園させました。この後、この夫婦に赤ちゃんが生まれています。

また、キーウィ3羽の寄贈があったことです。当時の女性飼育係の磯田さんがニュージーランドに行き、キーウィの繁殖場を訪問しました。現地でも通訳した方が日本に来たりして急に話が込み出し



キーウィ贈呈式

実現したのです。もちろんそれまでにはあらゆる手をつくしてニュージーランドへの働きかけを行っていたこともありましたが、中川園長や磯田さんの努力やおたがいのコミュニケーションがうまくいったことも見逃がせません。

また、クロオオカミの初めての出産もありました。8頭もの出産で、半分を親につけ残りを人工哺育で育てあげました。皆元気に成長したことは大変喜ばしいことでした。

コアラの誘致の話ですが、ちょうど私が園長時代にオーストラリアがコアラの輸出を解禁したことにはじまって、全国的ににわか誘致の話が盛んになり出しました。輸出条件はまことにきびしいものですが、まず餌のユーカリの確保が大きな条件の一つでした。市会でもコアラを大阪の子供たちに見せてやろうということで誘致で一致しました。その後、オーストラリアの野生動物保護の関係者やコアラパークの人たちが動物園に調査にやってきました。そこで、鶴見公園などにユーカリが植えられはじめたのです。

私は、在職時代に前後3回中国に派遣されたことも思い出に残っています。1回目はチンパンジーを航空便で運び、2回目はキリンを船で運び上海動物園に無事送り届けました。3回目は、上海演技団のバンダ・ウェイウェイの件で、上海や北京、広州、杭州を訪ね各地の動物園を見学しました。



私は、また、ボランティアの組織づくりに力を入れました。夏休みに子供たちに動物園で楽しく動物の知識を学んでいただくためにお手伝いをしていただく方々の組織です。その方々の教育のためのスライド作りやビデオテープの作成を手がけました。これからもますますこうした教育の媒体としての映像機材の導入が必要となっていくでしょう。

今後とも子供らが安心して動物を見たり学んだりできる動物園造りを心がけていただきたいと思います。また、貴重な動物が安心して繁殖できる広い面積を持った第2動物園が将来必ず必要になっていくことでしょう。

(文責：樽本 勲)

# 動物園グラフ

## “新聞と写真でつづる70年のあゆみ”

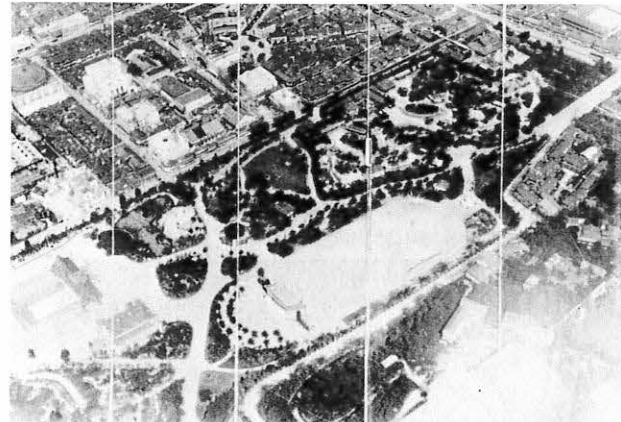
天王寺動物園は大正4年1月1日に開園以来、今年で70周年を迎えました。この70年間の歩みを写真でご紹介します。  
(構成：長瀬 健二郎)



↑ 大正年間の斃死動物追悼法会にはオスゾウの団平も出席しました。



↑ 大正3年6月5日、議会で大阪府立大阪博物館附属動物檻を市立動物園として移管するための審議が行われました。



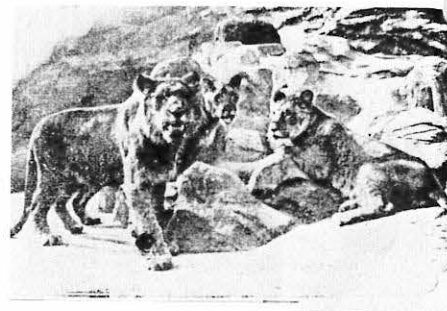
↑ 開園当時の動物園を撮った航空写真です。当時、園の広さは26,025㎡と現在の約4分の1でした。



↑ 大正3年12月26日午前11時30分、開園式が行われました。



↑ 昭和2年、日本初のチンパンジー、太郎が入園しました。

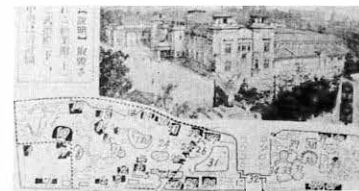


↑ 昭和4年には上野動物園生まれの3頭のライオン、「築波」(オス)、「利根」(メス)、それに「隅田」(メス)が初めて入園しました。天王寺駅から牛車で動物園まで運ばれました。



開園20周年を目指して拡張工事が行われ、2年後の昭和9年に完成しました。園の面積は26,670㎡から57,270㎡に広がりました。

↓ (昭和7年)



昭和11年の春にはこんなユーモラスな行事も行われました。引張っているのはメスゾウのランブルです。



動物あてに来た年賀状150枚が羊のおなかにおさまりました。今では紙の質が違いますのでこんなことはできませんが…。(昭和7年)

昭和11年9月、オーストラリアのシドニー動物園長ブラウン氏が来園し、日豪動物親善交換の話がまともりました。そして翌年、フクロネコなど4種の動物が入園し、当園からはヤマムスメ、トビが贈られました。外国の動物園との動物交換の第1号です。



昭和12年6月、日本の動物園では初めてのダチョウの人工孵化に成功しました。





ワンプリースの制服で園内の案内、来客の世話その他方面の面談を  
見ることとなった、なほ、深田預り所として園内に市バスの待合  
を一つ作る、来客を泣かさない、慰める心遣いまでしてゐる。左  
は案内ガール。

動物園に  
案内ガール  
大阪市では事務改革運動の一つとして、  
九日から一週間を「親切週間」とし、市街  
はじめ市関係の事務一切親切に行ふこと  
となつたが動物園でも入園者の便を計つて湯水の流す場、園内各  
内園版、万承り所などを設置するほか案内ガール五名をおき水浴

昭和12年、「案内ガール」も登場しました。



昭和13年になると動物園も戦時色に染まりました。この日は空襲のため猛獣が脱出したとの想定で捕獲演習が行われました。



昭和14年、戦時色は一層その濃さを増し、動物園もその影響を強く受けました。そしてついに昭和18年には26頭の猛獣が空襲にそなえ、処分されました。



苦しかった戦争も終わり、戦後復興の一番手としてタイからゾウの春子がやって来ました。昭和25年4月のことでした。

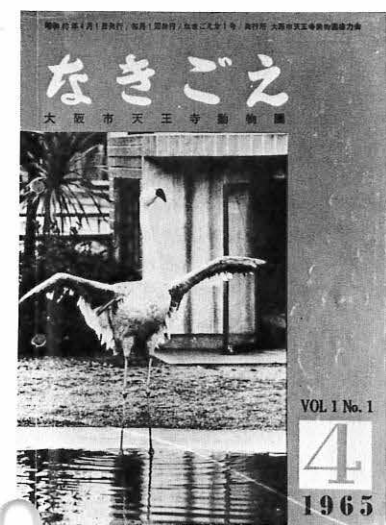


昭和7年7月に入園したチンパンジー、リタはその名演技で全国にその名を知られました。この日は木村八段(当時)と将棋をさしています。(昭和10年10月)

人気物のリタでしたが難産がもとで残念なことになり昭和15年7月23日に亡くなりました。



身代金40万円  
ゾウさん大阪の初夜  
ソウお忘れなく



天王寺動物園の戦後の復興はその後かけ足で進みました。それを象徴するように昭和40年、小誌「なきごえ」が発刊されました。



昭和40年、無事開園50周年を迎え、これを記念して第3次拡張工事が行われました。



昭和50年、開園60周年を迎えました。



昭和57年、49年に続いて3羽のキーウィがニュージーランドから贈られました。



昭和49年、中国の上海動物園と初めての動物交換が行われました。



そして本年開園70周年を迎え、記念事業の一環として、待望の夜行性動物舎が完成し、1月15日、完成式が盛大に行われました。

# 動物初来記録(戦前編)

当園は大正4年1月1日に開園し、今年がちょうど70年にあたります。すでにご存知のようにその前身は大阪府立大阪博物館附属動物檻です。大正3年6月の市会で博物館の附属動物檻が大阪市に移管されることが決まり、急拠、動物園建設がはじまりました。そして同年12月に完成し、附属動物檻の動物181点と共に設備器材も移設され、同時に新しい動物も購入されました。

さて、今回は開設時から昭和10年代後半までの時代に当園にはじめて入園した珍しい動物達をさぐってみました。開設当初にはどのような種類の動物が展示されていたのか詳しい資料は残されておらず、わずかな新聞のスクラップと戦前の動物台帳(昭和初期のもの)のみで正確なものはつかめておりません。しかし現在、新聞スクラップ、写真、市会・府会資料、博物館資料、市史編纂所等で調査中です。

開園初期、あるいはそれ以前は動物園よりもサーカス、移動動物園、見世物興行主の方が珍しくて高価な動物を収集展示していたようで、一例に明治36年に大阪で開かれた第5回内国勧業博覧会の余興動物にゾウ、トラ、ヒョウ、インドジャコウネコ、アノア、ラマ、クロザル、キツネザル、ヤマアラシ、リス、センザンコウ、ハゲコウ、ヒクイドリ、オトカゲ、コブラ等が展示されていました。



博物館附属動物檻から引継いだマレーゾウ「団平」

それでは、当園の初期の時代の珍しい動物の初来記録や変わった名前、価格などを紹介しましょう。○大正10年…6月にスマトラサイが入園しました。このサイはニカクサイ亜科に属し、マレー、スマトラなどに生息する絶滅の危機に瀕している動物で、当時も、そして現在でも動物園で飼われた数少ないものの1つで、当時25,000円の膨大な金額で購入されました。しかし、残念ながら大正14年1月30日に死亡し、動物園での短い生涯を終えています。

この遺体はすぐに剥製にされ標本室に展示されましたが、後日、泥棒が入り漢方薬として有用高価な犀角が切りとられ、今も無残に角がない姿で残っております。



大正14年7月8日お目見えのスローロリス「情猿」

○大正14年…この年の7月8日と8月11日の新聞に夜の世界の動物達という見出しで、オオコウモリ、スローロリス、フクロムササビ、フクロギツネ、スカンクが入園しています。フクロムササビは♂♀2頭で本邦初来です、フクロギツネは各社によって名称が違い、袋鼠、子守鼠、ファランゲストなどと書かれており、写真等からフクロギツネと判りました。フクロギツネはフクロムササビと共にオーストラリア特産の有袋類でフクロギツネの方

はその後も度々入園し、今年1月15日にオープンした夜行性動物舎にも展示しております。スローロリスは情猿と名前がつけられていました。スカンクは種は不明ですが本邦初来です。オオコウモリは首輪をつけられ、園内を散歩している写真が掲載されておりこれも本邦初来です。



フクロギツネ「袋鼠」  
大正14年7月8日のお目見え

11月22日にはアライグマが55円で購入されています。洗熊とか洗濯熊とかウォッシングベアーなどとその習性をまねた名称がつけられていました。○大正15年…4月7日にハーゲンベックからグラントシマウマの♂1頭が4,500円で購入されています。シマウマは斑馬、(中国語もこの字を用います)とか縞馬の名称が使われており、当時の新聞では大枚一萬金で購入と大見出しで掲載されておりました。

5月20日にクロザルが珍客来園と掲載され、6月30日にオランウータンがその毛色から赤狸々とか狸々の名称で入園しています。

○昭和2年…4月にゴールデンライオンタマリンがライオン猿の名称で入園したと報じています。先頃のワシントン条約でも超希少、絶滅の危機に瀕する動物として今後、原産地から出されることはまずないと考えられますが、この時代は規制も甘く、知識も浅いためこれらの希少動物が豊富に出回ったのでしょう。現在、剥製として当園に残っています。

7月にワオキツネザルが200円で購入されました。そして10月8日に本邦初来としてチンパンジー(太郎)が黒狸々の名称で入園しています。このチンパンジーは♂の4才でアメリカの婦人が飼っていたものです。映画にも出演したことがあるというふれこみで5,000円で購入しています。しかし1ヵ月余の11月19日に肺炎で急死し、短い生涯を閉じます。太郎は生存中も療養中も数々の写真に記録され、遺体は三輪車に乗った剥製として保存されました。2月27日にはハーゲンベックから2頭のラマが南米駱駝の名称で入園しています。



昭和2年10月8日にはじめて日本に来たチンパンジー「太郎」



昭和4年3月16日に来園したウオンバット「袋熊」

○昭和3年…マントヒビが1頭35円で購入され、本邦初来のハマドリアス拂々来園と7月13日の新聞は報じています。

○昭和4年…3月16日の新聞にウオンバットが袋熊の名称で入園と報じています。

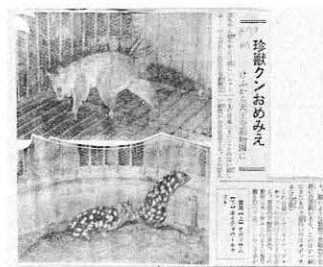
○昭和5年…4月

15日の新聞にコモンマーモセットが豆猿、ポケット猿の名称で本邦に初めて渡来しております。同じく4月30日にはカバが5,700円で購入されております。5月18日にはノドジロオマキザルが尾巻猿の名称で1頭110円の価格で購入されています。9月5日にはアルマジロが廣帯鎧鼠といういかつい名前がつけられ分類も貧齒目ではなく異節目と称し、1頭120円で購入されています。しかし当時の新聞写真を精査しますと頭胴長が50cmと記され、頭も非常に大きくうろこ可動帯甲も大きく幅広く、帯間や腹側に長い剛毛が密生しているのがうかがわれ可動帯甲の数も多く、これらのことから通常のココノオビや、ムツオビ、ミツオビのように細くてきゃしゃなアルマジロではなくアラゲアルマジロと思われます。12月14日には体長40cmの大栗鼠が…たぶんインドオリスと思われ入園と掲載されています。

○昭和6年…1月25日の新聞にウーリーモンキーが綿毛猿の名称で2頭を購入、公開と出ています。同じく4月12日には♀2頭のマンドリルが、9月26日には種不明ですがハリネズミが栗のイガ鼠の名称で、12月14日には4才の早のトラが1頭880円で購入されています。

○昭和7年…3月17日にこれも種は不明でいずれの科に属するか判りませんがヤマアラシが1頭25円で豪猪の名称で購入されています。当初豪猪なるものがわからずイノシシの仲間と勘違いをしたほどでした。7月20日にはゴールデンキャットが黄金猫、大山猫の名称で、アノアが山水牛あるいは羚羊との合の子という見出しで紙上に掲載されています。12月20日にはブラッザモンキーが髭猿の名称で1頭250円で購入されています。髭猿の文字は当初パタスザルのヒゲを連想していたのですが、各社の新聞を精査しているうち、かすかにブラッザの横文字が判別できたことによりブラッザモンキーとわかりました、これも本邦初来のようなのです。

○昭和8年…5月5日にヒョウが1頭265円で購入され、6月にキリンが♂♀2頭の1ペアーで15,000円で購入され、各々キンちゃん、リンちゃんと名付けられました。6月28日にはブチハイエナが斑紋狼の名称で♂1頭270円で購入され、11月22日にはホッキョクグマが1頭1,500円で♂♀各2頭の計4頭が6,000円で購入されました。この前の年の7年に南園が拡張され、北極グマ舎が建てられました。当時の動物園アルバムには今も残っている北極グマ舎に4頭がうちそろっている写真がのっています。



昭和12年8月30日  
ネイティブキャット「袋猫」来園

○昭和9年…3月13日にはサバンナモンキーが緑猿の名称で1頭23円で購入され、6月24日には本邦初

来のリカオンが1頭330円で購入されています、また9月6日にはワートホッグがこれも本邦初来として疣猪の名称で入園したとあります。

○昭和10年…1月25日にはベニガオザルが紅面(顔)猿の名称で本邦初来として1頭30円で入園しており、3月18日にはピューマがアメリカライオンの名称で本邦初来として1頭750円の価格で購入されています。

○昭和12年…2月4日にはシマハイエナが縞狼の名称で1頭250円で購入され、4月2日にはモナモンキーが1頭80円で購入されました。これも本邦初来のようなのです。8月30日にはフクロネコが2頭、ネイティブキャットの名称で、9月26日にはボンネットモンキーが頭巾猿の名称で1頭の寄付があり、11月30日にはミドリヒビが1頭130円の価格で購入されています。

○昭和13年…3月18日にレッサーパンダが1頭195円で購入され、3月21日にはウアカリが金狸々の名称で入園しています。7月10日には本邦初来としてガラゴが1頭40円で購入されています。ガラゴも種不明で新聞写真からオオガラゴと思われる。

以上が大体、戦前の動物初来記録で、ここでいう本邦初来というのはサーカス、興業主や私設動物園を除く動物園を対称としています。昭和初期には当園はサルコレクションが著名で、その他、ダスキールトン、ハヌマンランゲール、シシオザル、ブタオザルなど数多くそろえていたようです。初来動物のなかで東南アジア、アフリカの動物に比べ南米産が少ないのは輸送手段や輸送距離によるものと思われる、又、大型獣のサイ、キリン、ゾウ、カバなどが高価なのは輸送手段が船しかなく輸送に時間と場所と飼料など手間がかかるためであろうと考えられます。因みに昭和初期のハーゲンベックの動物価格の比較のために本市職員の給料等をあげておきます。

(飼育課：中川 哲男)

動物販売価格ハーゲンベックZoo	昭和3年4月27日	昭和6年10月20日
キリン 1ペアー	18,000円	15,050円
カバ 3才♀ 1才	9,000円 7,500円	6,800円
ゾウ	9,000円	アフリカゾウ♀ 6,800円
ホッキョクグマ	2,500円	1ペアー 2,000円
ライオン 雄 2.5才	3,000円 2,000円	雄6才 2,400円 1,600円
サイ		17,000円
ラマ 1ペアー		800円
市長 給料	大正3年 月 額	1,000円
園長 給料	月 額	155円
技手 給料	月 額	50円
書記 給料	月 額	45円
市立大学学舎建設費	昭和10年	1,620,000円
大阪港修築工事	昭和2年	150,000,000円



## 数字でみる70年のあゆみ

開園以来の70年の移りかわりは、とても簡単に示されないほど膨大なものですが、その中でもいくつかの項目について、開園時、昭和初期、戦時中、戦後の混乱期、そして現在に至るまでの変化を数字で示してみました。

### ☆ 収容動物数

府立大阪博物館付属動物檻より動物を受領したのは大正3年12月のことで、その時にはゾウ、ライオン、トラ、クマなど181点の動物が大阪府から大阪市に移管されています。昭和10年には珍しい動物の購入や南方からもたされる動物があいつぎ、飼育動物種類数、点数とも最高に達します。終戦後まもなくは静物園とよばれたほど動物数は激減しましたが、徐々に動物園も復興し、昭和36年からの9ヵ年改造工事が完了してからは、飼育種類数も戦前の水準に戻りました。特に収容種類数の増加に力をいれた昭和56年には哺乳類、鳥類、ハ虫類あわせて373種類と日本の動物園でも最高のコレクションを誇りました。しかし以後は適正な収容種類数を目標としており、330~340種類を維持しています。

年	飼育動物数	飼育点数
大正4年	? 種	181 点
〃 12年	173	940
昭和10年	323	2,991 (魚類、両生類を含む)
〃 22	93	250
〃 30	170	1,700
〃 40	269	1,383
〃 50	350	1,255
〃 59	330	1,119

### ☆ 動物園の面積

大正3年6月の大阪市議会での原案では14,000㎡の敷地面積を予定していましたが、参事会がこれでは上野や京都と比べても狭すぎると修正案を出し、

26,025㎡の面積で開園しました。3回にわたる拡張と周辺の跡地や道路を包含し、現在では開園時の4倍に面積が広がりました。

年	面積	備考
大正4年	26,025㎡	
昭和5年	26,670	(+645㎡) 公園通路包含
〃 7年	57,270	(+30,600) 第一次拡張
〃 10年	60,570	(+3,300) [天王寺公会堂跡包含]
〃 27年	83,670	(+23,100) 第二次拡張
〃 32年	86,670	(+3,000) 駐車場設置
〃 38年	87,470	(+800) 小宝亭跡
〃 40年	103,970	(+16,500) 第三次拡張
〃 60年	105,258	(+1,288) [夜行性動物舎会議室設置]

### ☆ 入園者数

年度	有料入園者数
大正4年	57.0万人 (大正4年1~3月を含む)
〃 11年	120.4
昭和9年	250.5
15	215.6
20	13.2
25	157.7
30	140.6
40	163.3
50	116.1
59	75.5

有料総入場者数 86,307,755人

開園以来この70年間に当園に入園した有料入場者は8,600万人をこえました。これに無料入場者(開園以来昭和46年までは幼児無料、昭和47年以降は15歳以下無料)をあわせると総入園者数は推定2億人はこえます。なんと日本の人口の2倍近くが当園を利用されたことになるわけです。昭和9年は年間最

高の入園者を記録しましたが、これは当時の名優チンパンジーのリタの人気におうところが大きいようです。また昭和20年は戦争の影響もあって、年間最低でした。昭和25年にゾウの春子、ゆり子が来園し、一挙に入園者数が増加しました。なお1日の最高有料入園者数は、ゾウの春子が来園した最初の日曜日で、この日はなんと60,000人の有料入場者数を記録しています。

### ☆ 入園料

大正3年の市議会の原案では大人3銭、小人2銭になっていましたが、参事会で修正されて大人5銭、小人3銭で開園しました。昭和23年から28年にかけては戦後の物価高騰のあおりで入園料も値上げ改正があいつぎました。昭和47年以降15才以下無料となりましたが、それまでは幼児(4才未満)のみ無料でした。

年	入園料		
	大人	小人	幼児無料
大正4年	5銭	3銭	幼児無料
〃 9年	10	5	〃
昭和9年	15	5	〃
〃 21年	1円	50銭	〃
〃 23年	6	3円	〃
〃 23年	10	5	〃
〃 24年	20	10	〃
〃 26年	30	15	〃
〃 28年	40	20	〃
〃 40年	60	20	〃
〃 45年	100	20	〃
〃 47年	100	15才以下無料	〃
〃 51年	200	〃	〃
〃 56年	300	〃	〃

### ☆ 長年飼育動物

この70年間に飼育した動物はどの位になるのでしょうか。実数は我々もつかみかねていますが、生まれた動物、ふ化した雛、購入した動物、交換で譲受

た動物、寄付でいただいた動物など毎年、新顔でふえていく動物だけでも300~400点にのぼります。戦前の記録の詳細が不明ですが、おそらく当園で飼育された動物は2万頭は越えるものと思われます。もちろんその中には誕生後数時間で死亡したものもありますし、当園の歴史の生き証人のように長く飼育された動物もあります。

### 長年飼育動物ベスト10

動物名	性別	愛称	飼育期間	飼育年数
1 エミュウ	♂		昭和11年8月26日~昭和53年8月29日	42年
2 モモイロペリカン	♂		大正9年~昭和35年7月15日	39年
3 インドゾウ	♀	春子	昭和25年4月15日~生存中	34年11ヶ月
4 〃	♀	ゆり子	昭和25年6月5日~生存中	34年10ヶ月
5 タンチョウ	♂		昭和24年3月3日~昭和58年5月9日	34年3ヶ月
6 チンパンジー	♀	シュジー	昭和26年5月31日~生存中	33年10ヶ月
7 カバ	♀	デブコ	昭和27年10月10日~昭和58年1月11日	30年3ヶ月
8 エミュウ	♀		昭和12年4月12日~昭和42年4月1日	30年
9 コンドル	♂		昭和32年9月27日~生存中	27年6ヶ月
10 〃	♀		昭和32年9月27日~生存中	〃
次カラカラ	不明		昭和32年10月31日~生存中	27年5ヶ月

### ☆ 所属の変遷

組織的には土木課(部、局)に所属していた期間が一番長く、40年近くは土木局の一部門として位置していました。戦時中は教育部、総動員部、市民局などと目まぐるしく変わりました。昭和26年から現在の公園局の前身である土木局公園課に所属し、以後は公園課が部、局と昇格するにつれて、動物園も3類の事業所から2類、1類(部に相当)へと昇格しました。

動物園の所属変遷

年	(局)	(部)	(課)	属 (係)
大正3年11月7日			土木課	営繕係動物園
〃 8月7日12日			営繕課	動物園係
〃 13年4月9日		土木部	公園課	動物園係
昭和15年8月14日		教育部		動物園
〃 16年6月14日		総動員部		動物園
〃 17年6月11日	市民局			動物園
〃 20年4月30日	〃		町会課	動物園
〃 20年9月15日	教育局		社会教育課	動物園
〃 21年2月15日		教育部	〃	動物園
〃 22年7月22日	土木局		緑地課	動物園
〃 26年6月15日	〃		公園課	動物園
〃 30年9月6日	〃		動物園	2類昇格 (2係設置)
〃 34年7月11日		公園部	動物園	
〃 48年4月4日	公園局	管理部	動物園	
〃 49年4月2日	公園局	動物園		1類昇格 (2課2係設置)

(飼育課：宮下 実)

2・3月の動物園日記

- 2/12. アカカンガルーの“ポケット”が昨日のうちに出産したようです。ライオンの雌“デコ”と“ボコ”が発情のため、昼間は2頭いる雄を、交互に出すことにしました。
- 2/13. ワシミミズクが産卵しました。
- 2/15. 日本動物園水族館協会による飼育技師資格認定試験が当園レクチャーホールにて行なわれました。
- 2/17. ベニジュケイの雌が肺炎で死亡しました。
- 2/18. エランドが交尾しました。
- 2/20. キングペンギン5羽の爪切を行ないました。
- 2/21. シュバシコウが交尾しているのを確認しました。
- 2/22. 水禽放養舎のシュバシコウ用の巣材上げをしました。アカカンガルーの“コリン”の子が袋より出ました。
- 2/24. タスマニアデビルの雌“スー”が発情し、雄の“クロベア”が抱きしめて離そうとさせません。
- 2/25. クマのぬいぐるみをつキノワグマに見たて

- 2/27. シュバシコウの1羽が、上下のくちばしを7cmほど折ってしまいました。タスマニアデビルのクロベアのスーへの求愛行動が続いています。
- 2/28. シュバシコウ2羽をコウノトリ舎へ移動させました。タスマニアデビルのクロベアとスーが交尾し、またキタキツネの交尾も確認しました。
- 3/1. タスマニアデビルの雌“スー”が雄の“クロベア”をよせつけなくなりました。
- 3/2. タスマニアデビルの雌“ミミ”に袋をなめる行動や神経質な動作が認められました。エミユウが3卵を抱卵中です。
- 3/3. キジ類にワクチンの接種を行ないました。ボランティアの昭和59年度総会が開催されました。
- 3/4. コブハクチョウの交尾を認めました。
- 3/5. ラマ (雄ゴローと雌マリ)、オオガラコ、ハリモグラの交尾を確認しました。獣医、学生の動物病院実習がはじまりました。
- 3/7. フェレット (ケナガイタチ) を2番展示しました。
- 3/9. ドールの出産に向けて準備をはじめました。

動物園ニュース

§ タスマニアデビル、繁殖か？

昨年10月にオーストラリアのタスマニア州より贈られたタスマニアデビルの“クロベア”が1月25日に“ミミ”と、2月28日には“スー”とそれぞれ交尾しました。現地では夏の終わりにあたる2月から3月が繁殖期とされています。南半球から北半球の日本へやって来て間がないためまだ季節の逆転が繁殖期に影響を与えなかったようです。交尾後2頭のメスはそれぞれオスと隔離して寝室に収容しています。妊娠期間は31日ですが、有袋目の動物であり、半年ほどは袋の中に入っていますので、出産を確認できるのはまだ先になりそうです。赤ちゃんが誕生すれば、日本ではもちろん初めてのことですのでたいへん楽しみです。しばらくの間、メス2頭は展示できませんので、ご了承ください。

§ シュバシコウの繁殖準備

恒例のシュバシコウのために巣材の準備が、水禽放養舎で行なわれました。1mぐらいの長さの切ったヤナギの細枝を巣台に入れました。さっそく昨年同様10巣で営巣しており、交尾行動も観察されていますので間もなく産卵することでしょう。また、水禽放養舎では例年どおりアオサギも2つがい営巣しており、昨年自然繁殖したカナダガンも営巣行動が始まっていますので、これからが楽しみです。



§ ケナガイタチの寄贈

3月6日、京都大学の農学部からケナガイタチ4頭 (2つがい) の寄贈をいただきました。ケナガイタチは、ヨーロッパに分布するイタチの仲間、暗かっ色の体毛をしており、腹側と頭、尾が黒色をしています。実験動物として知られているフェレットはケナガイタチのアルビノを実験動物化したものです。検疫終了後、小獣舎に展示しましたが、イタチの



現在の飼育動物数

(1985年2月28日現在)			
哺乳類	13目	108種	417点
鳥類	19目	182種	570点
爬虫類	3目	31種	70点
計	35目	321種	1,057点

仲間特有の愛嬌たっぷりのしぐさは人気を集めています。

§ 脱出猛獣捕獲訓練

1年に1回行なわれる脱出猛獣捕獲訓練が2月25日に行なわれました。今年はずキノワグマが脱出したとの想定で、ヌイグルミのクマに職員が入り南園一帯で捕獲訓練が行なわれました。全職員が捕獲、救護、誘導などをそれぞれ分担し、約30分で訓練は無事終了しました。



§ ボランティア10年展

1976年に誕生した大阪動物園ボランティアーズも今年で10年目を迎えました。これを記念して、3月17日から4月14日まで「大阪動物園ボランティアーズ10年展—動物と私達—」と題して、活動の歴史や活動に使った材料などを北園展示館に



展示しました。

§ ハト対策としての目玉模様

園内には多数のドバトが生息しており、その害にはたいへん困っていました。そこで、最近各地で注目されている目玉模様をキジ舎前の花壇に設置したところある程度の効果が認められました。そこで、花壇だけでなく、餌の盗食や糞の害に困っているラクダ舎や小獣舎、ゾウ舎にも設置しました。



● お知らせ

春の動物園祭を4月28日から5月6日までの日曜祝日に開催しますのでご来園ください。

\* 休園日のお知らせ \*

動物園の休園日は毎月第3日曜日です。6月までの休園日は下記の通りです。  
4月15日(月)、5月20日(月)、6月17日(月)、  
開園時間は午前9時30分～午後5時で、午後4時に切符売止めになります。

**ゆとり満喫、信頼のカード。**

ショッピングから海外旅行まで、  
1枚のカードでワイドにご利用いただけます。  
近鉄がDCおよびVISAと提携した便利な新カード。

近鉄グループカード **KIPS**  
(キップス)

◎国内・海外のDC加盟店すべてに通用。  
◎近鉄百貨店グループをはじめ、都ホテルチェーンなどでの  
ご利用にはいろいろな特典が。

**近鉄百貨店** お問合せとお申込みは 各店クレジットセンターへ  
 ●アベノ店7階 ●上本町店10階 ●東大阪店本館 ●奈良店4階 ●西京都店1階  
(京都ファミリー)

ひかりのくに ●オールカラー

監修・阪口浩平  
指導・宮武頼夫

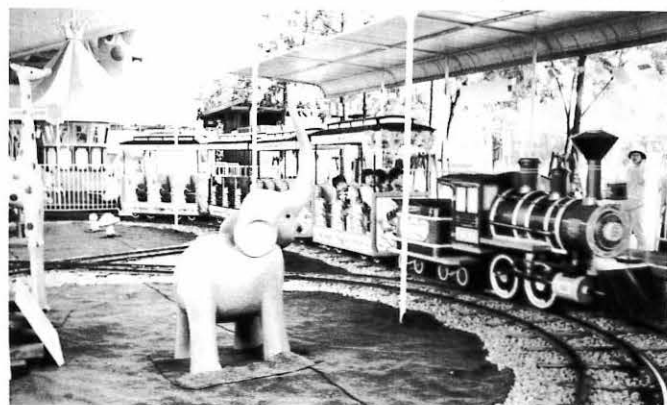
**むし**  
くらしとかいかた

今まで、気にもとめなかつた自然の中で昆虫たちが生きている。みんなも、虫になって自然の中を歩いてみよう。きくとすはらしいことに出会えるはずだ。

85変形 84ページ 580円

ひかりのくに株式会社  
〒542-1 大阪市天王寺区上本町3-2

たのしいのりものが待っています。



1人1回  
100円  
(1才まで無料)

団体割引  
(30人以上)  
……1割引

久竹娛樂株式会社  
TEL (06) 541-3112

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

天王寺動物園の機関紙

月刊 **なきごえ**

ご購入をお奨めします。  
年間購読料 1,100円 (含、郵送料)

お申し込みは、**大阪市天王寺動物園協会**へ  
TEL 06-771-0201

世界初の最高感度

(カラープリント用フィルム)

**1600 新登場!**

カメラの大林

桜橋本店 ☎341-8091  
三番街店 ☎372-5031



**フジカラー HR 1600**

ISO1600/33° 135-24枚撮

天王寺動物園

**ZOO GUIDE** の

ご購入をおすすめします  
(1冊 ¥450)  
園内各売店にあります

あらゆる動物に愛の手を!

社団法人 大阪動物愛護会

動物文学会主宰 平岩米吉著

新刊

# 猫の歴史と奇話

(定価・2600円)  
A5判・260頁  
口絵挿画・113図

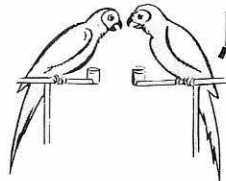
猫に関する古今東西の科学と文献を網羅し、しかも平易な文章で綴った猫の宝典。著者の三十余年にわたる収集研鑽の成果、ここに結実。

☆学術書でありながら、推理もののように愉しく読める猫の本  
☆架空の伝説は別に、猫の珍しい実話400余を収載

## 主な目次

- |                                     |                                       |
|-------------------------------------|---------------------------------------|
| 第一章 猫の歴史<br>欧州は古代エジプト、日本は宇多天皇から近世まで | 第二章 猫股伝説<br>老猫化けてさまざまな怪異をなす           |
| 第三章 猫の報恩談<br>蛇を咬んだり、金を運んだりする        | 第四章 野性猫の存在<br>裏日本の山猫、離島の山猫、鬱陵島の猫の渡米など |
| 第五章 猫の奇話(上)<br>長命、多産、三毛猫などの形態の奇話    | 第六章 猫の奇話(中)<br>長距離の帰家記録や鼠を育てるなど不思議な行動 |
| 第七章 猫の奇話(下)<br>マタタビを媚薬とする奇妙な習性など    | 第八章 益獣としての猫<br>あらゆる角度から猫の生態と効用を探究     |

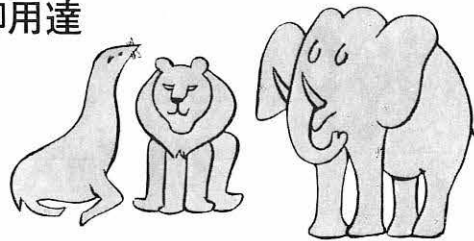
発行 動物文学会 〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2 電話(03)717-1659・振替東京5-9800  
発売 (株)池田書店 東京都新宿区弁天町43番地 振替・東京4-165425



## 鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

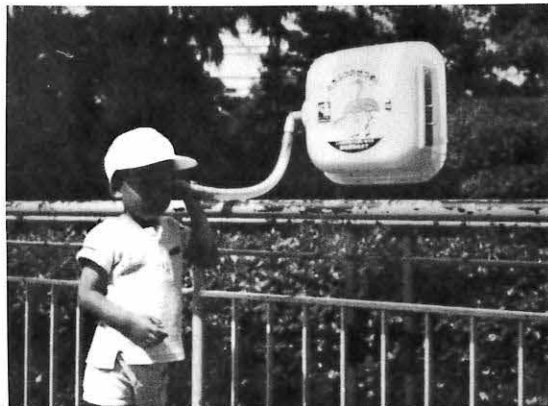
- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



## 有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号 電話(078)221-8195(代)  
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

たのしい動物のお話は、  
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎  
30数カ所にあります

関西特機株式会社  
電話 06-762-2333  
1回 20円

## 動物園内での

## お食事、ご休憩は

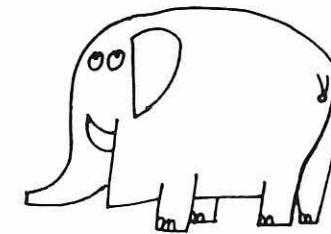
大阪市立天王寺動物園内

## 中央売店

☎(06) 771-0973



## 天王寺動物園内



## 南園売店

代表者 松谷良子

大阪市天王寺区茶臼山町6-74  
電話 (06) 771-7110番

## 園内でのお写真は…

## 動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して  
おりますのでご説明  
に伺いました際は、  
よろしくお願ひ致し  
ます。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせていただきます。  
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社  
TEL 06-856-7444

新鮮です、さわやかです。フルーツが入った、おしゃれなヨーグルト。



果肉とソフトヨーグルト  
の名コンビ



# 雪印ヨーグル

●ブルーベリー・キウイフルーツ・ストロベリー・オレンジ・カクテル

## 夜行性動物舎完成記念

キーウィの  
ぬいぐるみ

新発売

1コ 2,300円

協会で……！



なきごえ 昭和60年4月10日発行（毎月1回10日発行）第21巻 第4号 （通巻236号）

編集 / 大阪市天王寺動物園

発行人 / 大阪市天王寺動物園協会 中川道朗

印刷所 / 株式会社 松村善進堂 定価 100円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

振替口座 大阪 37823

1年継続 (12部) 1,100円 (送料共)

編集委員

（土井 良彦・伊藤 重朗・小出 雅三・樽本 勲・中川 哲男・前田 豊彦・宮下 実）  
（長瀬健二郎・榊原 安昭・森本 委利・大野 尊信・葭谷 文彦・農本 武志・野口 秀高）  
（仲谷 登・柴田 総・藪野 幸司・堀 弘・大川 光雄）